

矢作川流域圏懇談会通信

H26 山部会編 vol.5



発行日：平成26年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第20回山部会WGを開催しました！

9月19日（金曜日）に第20回山部会WGが根羽村 しゃくなげホールにて開催されました。今回のWGでは、「山村再生担い手づくり事例集」、「木づかいガイドライン」について、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。WGの後には、流域の山の課題解決に向けた情報交換の一環として、基調講演とディスカッションを行いました。



日時：平成26年9月19日（金）13時30分～17時30分

場所：根羽村 しゃくなげホール

参加者：29名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



「山村再生担い手づくり事例集」は、年度内に20件以上の活動団体への聞き取りとレポート作成を行うことを目標に、昨年度と同様に、事例集としてとりまとめることを目的としています。今回は、取材先や取材者を確認するとともに、取材者を募集する文面などを確認し、取材についての意見交換を行いました。

矢作川流域圏懇談会に所属する個人・団体の方で、取材への参加を希望する方は是非、申し込みをお願いします。



2. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



矢作川流域圏木づかいガイドラインについては、矢作川流域圏の木づかいの推進を実現するための実践的なとりくみについて意見交換を行っています。

今回も、「市民目線」から日常的に木づかいの推進に結び付く行動・活動（「さあ～しよう」）をイメージしながら、メンバーみんなで行動について議論しました。



3. 基調講演「ソウルフルな木づかいからビューティフルな森づくり村づくりを」を実施し、講演の感想と地域の報告と座談を行いました

流域の山の課題解決に向けた情報交換の一環として、日本全国スギダラケクラブの若杉浩一さんを講師にお招きし、「ソウルフルな木づかいからビューティフルな森づくり村づくりを」と題した基調講演を行いました。

基調講演の後、矢作川流域圏の木づかい・森づくりのキーパーソンとのディスカッションを行いました。流域圏のキーパーソンとして、今村豊さん（根羽村森林組合）、洲崎燈子さん（矢作川研究所）、蔵治光一郎さん（東京大学）が丹羽健司さん（矢森協）の進行のもと、若杉浩一さんとともにディスカッションしました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

今年度取材を行う21団体と取材者募集の文面について決定し、今後は以下のように進めることとなりました。

8月末(取材先の確定) → 9月中旬(取材者の募集、確定) → 9月末(取材者と取材先のマッチング)
→ 10月~12月中旬(取材): 事前検討会 10月、中間報告会 11~12月
→ 調査者によるレポートの作成・提出、編集会議、事例集の完成(12月~3月までを予定)
→ ふりかえり(1~2月)

○主な意見

- 取材にあたっては、事前検討会、中間報告会をそれぞれ実施し、振り返りの会を企画することとして、合計3回の編集会議を設けた。(洲崎)
- 現時点で取材者として11名の応募があった。引き続き、募集を継続する。(洲崎)
- 取材について、誰がどこをやるかを決めるのはいつごろか。(今村)
 - ▶ 十分な数の取材者がそろってからマッチングを行う予定である。10月上旬を予定する。(洲崎)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインでは、木づかいの推進に関わる様々な取り組みについて話し合っています。

今回は、木づかい推進活動に関連して、スギダラ矢作川支部設立をにらみつつ、参加者それぞれが木づかいの推進に資する動機となる「さあ~しよう」の企画を考えてくることとなりました。

○主な意見

- 木づかいガイドラインの「さあ~しよう」の業界編に掲載した住宅建築フェアについては、実存する住宅メーカーが既に木曽川流域で取組を行っている。(今村)
- 森林所有者の立場から見ると、木材は買い叩きに来る人がいるのも事実だが、下流域での利用を喚起していくことも重要である。(蔵治)



●講演会：ソウルフルな木づかいからビューティフルな森づくり・村づくりを

スギダラ矢作川支部設立準備基調講演会として「ソウルフルな木づかいからビューティフルな森づくり村づくりを」を開催しました。基調講演ののち、会場からも意見を頂きながらディスカッションを行いました。最後に、スギダラクラブ矢作川流域圏支部の設立が、参加者一同で確認されました。(連絡先は根羽村森林組合となりました。)

○主な意見

- 活動を楽しむことができれば取組みも継続する。取組みの思考も進むため、杉を対象とした活動を「楽しむ」ということが重要と感じた。(今村)
- 地域にある木材をおしゃれにPRすることで、企業と地域とまちがつながる強力な事例と感じ、イメージの素晴らしさにも圧倒された。(洲崎)
- 森林・木材の分野では、世界的にも貨幣価値以外の価値として文化・歴史・伝統などの価値が重要視されており、若者の価値観も大きく変わっている中、それをうまくとらえながら、最先端を走っていると感じた。(蔵治)
- 木で遊べる玩具があるとよい。みんなが使えて安価で丈夫なものがあると木の利用が進むと思う。(松井)
- 木や森を見て気持ちがいいと思う気持ちを「価値」ととらえ、木材利用の推進については、みんなで共感する部分を見出しながら、地域全体で「共感価値」を生んでいくこと重要と感じた。(山本)
- 田舎で働くようになって、地域であまり木が使われていないと気付いたが、もっと利用して、デザインなどのヒントも聞けたのでよかった。(松田)
- 地域おこし協力隊で地域に入っているが、地域では意外と木が使われていないように感じている。自分の生活の中で木を使っていくことを考えている。(能見)
- 幼いころに木に触れる体験が多いと木に対する親しみもわくので、木育などが重要と思う。日本は都会に住む人が圧倒的に多い国なので、都会に住む人たちの木に対する考えを変えることは重要と感じた。(蔵治)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第21回山部会は10月17日(金)~18日(土)岡崎市にて開催します。

